



# グローバルドライブ

設定日 2014年2月24日

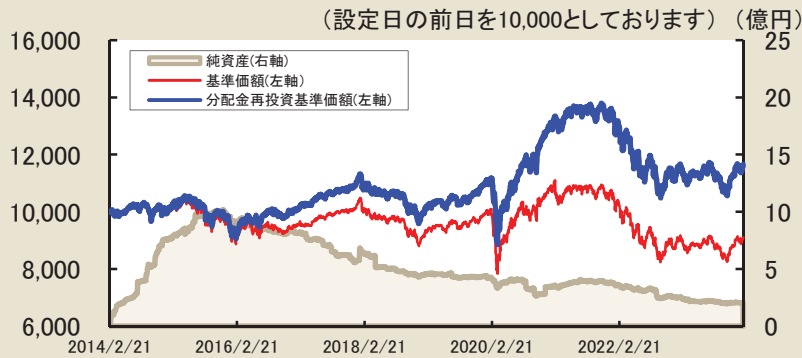
決算日 3ヵ月決算型：原則2月、5月、8月、11月の各18日 年1回決算型：原則2月18日

追加型投信／内外／資産複合

2024年1月31日現在

(3ヵ月決算型) 限定為替ヘッジ

## 基準価額の推移(2014年2月24日～2024年1月31日)



・基準価額は、信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については、後記の「信託報酬」をご覧ください。  
・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したのとして計算を行い表示しています。

### 資産構成

内訳	1月末	12月末
グローバルドライブ・マザーファンド	97.9 %	98.2 %
純資産	206 百万円	209 百万円

### 実質組入比率

内訳	1月末	12月末
外国籍投資証券	95.9 %	96.9 %
ETF	0.2 %	0.2 %

## 基準価額

・基準価額および前月比は分配落後です。  
・基準価額は当ファンドの信託報酬控除後の価額です。

1月末	前月比	12月末
9,108 円	▲0.3 %	9,137 円

### 基準価額の騰落率

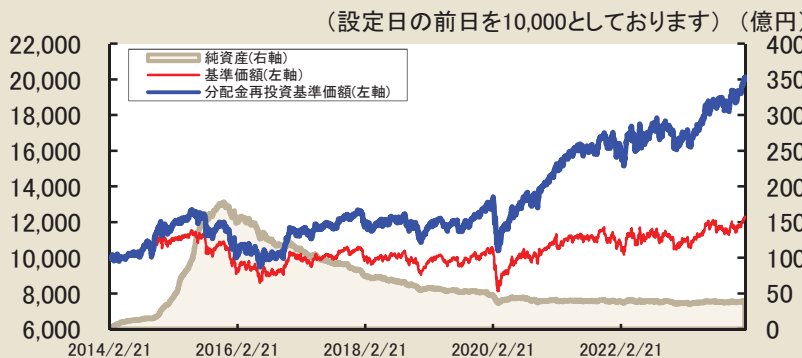
・基準価額の騰落率は、税引前分配金を再投資したのとして計算を行い表示しています。  
・分配金は1万口当たりです。

1ヵ月	▲0.3 %	2023年11月	0 円
3ヵ月	10.1 %	2023年8月	0 円
6ヵ月	▲0.0 %	2023年5月	0 円
1年	0.8 %	2023年2月	50 円
3年	▲9.9 %	2022年11月	0 円
5年	16.4 %	2022年8月	50 円
設定来	16.5 %	設定来合計	2,485 円

### 分配金の推移(税引前)

(3ヵ月決算型) 為替ヘッジなし

## 基準価額の推移(2014年2月24日～2024年1月31日)



・基準価額は、信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については、後記の「信託報酬」をご覧ください。  
・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したのとして計算を行い表示しています。

### 資産構成

内訳	1月末	12月末
グローバルドライブ・マザーファンド	98.2 %	98.2 %
純資産	4,001 百万円	3,861 百万円

### 実質組入比率

内訳	1月末	12月末
外国籍投資証券	96.2 %	97.0 %
ETF	0.2 %	0.2 %

## 基準価額

・基準価額および前月比は分配落後です。  
・基準価額は当ファンドの信託報酬控除後の価額です。

1月末	前月比	12月末
12,288 円	4.2 %	11,795 円

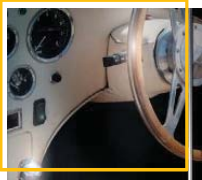
### 基準価額の騰落率

・基準価額の騰落率は、税引前分配金を再投資したのとして計算を行い表示しています。  
・分配金は1万口当たりです。

1ヵ月	4.2 %	2023年11月	200 円
3ヵ月	10.5 %	2023年8月	400 円
6ヵ月	8.0 %	2023年5月	150 円
1年	20.3 %	2023年2月	0 円
3年	37.9 %	2022年11月	0 円
5年	77.0 %	2022年8月	300 円
設定来	101.3 %	設定来合計	5,310 円

### 分配金の推移(税引前)

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

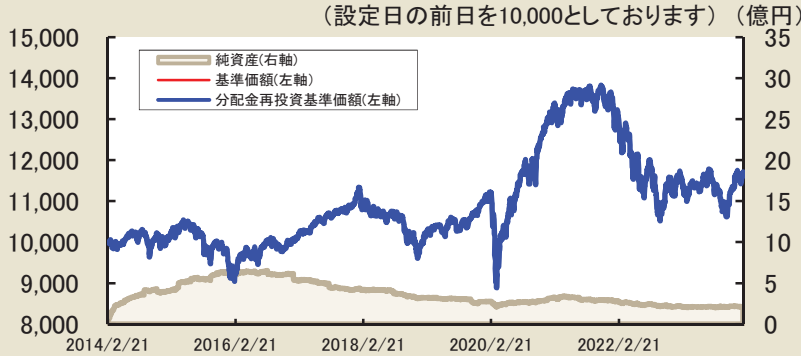


# グローバルドライブ

2024年1月31日現在

## (年1回決算型) 限定為替ヘッジ

### 基準価額の推移(2014年2月24日～2024年1月31日)



・基準価額は、信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については、後記の「信託報酬」をご覧ください。  
 ・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものとして計算を行い表示しています。

### 資産構成

内訳	1月末	12月末
グローバルドライブ・マザーファンド	97.8 %	98.2 %
純資産	213 百万円	217 百万円

### 実質組入比率

内訳	1月末	12月末
外国籍投資証券	95.9 %	96.9 %
ETF	0.2 %	0.2 %

### 基準価額

・基準価額および前月比は分配後です。  
 ・基準価額は当ファンドの信託報酬控除後の価額です。

1月末	前月比	12月末
11,716 円	▲0.3 %	11,752 円

### 基準価額の騰落率

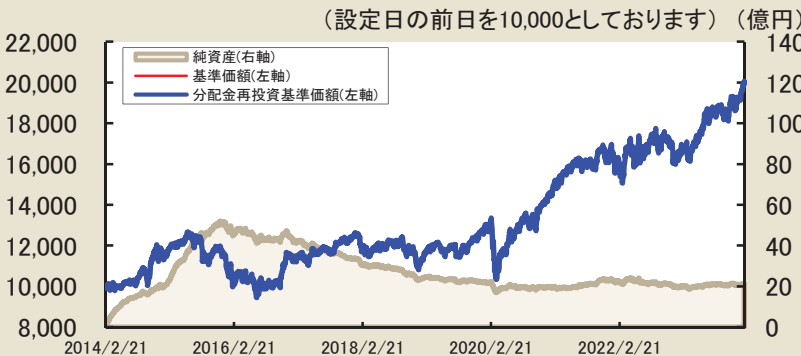
### 分配金の推移(税引前)

・基準価額の騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして計算を行い表示しています。  
 ・分配金は1万口当たりです。

1ヵ月	▲0.3 %	2023年2月	0 円
3ヵ月	10.2 %	2022年2月	0 円
6ヵ月	0.1 %	2021年2月	0 円
1年	0.9 %	2020年2月	0 円
3年	▲9.8 %	2019年2月	0 円
5年	16.7 %	2018年2月	0 円
設定来	17.2 %	設定来合計	0 円

## (年1回決算型) 為替ヘッジなし

### 基準価額の推移(2014年2月24日～2024年1月31日)



・基準価額は、信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については、後記の「信託報酬」をご覧ください。  
 ・分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものとして計算を行い表示しています。

### 資産構成

内訳	1月末	12月末
グローバルドライブ・マザーファンド	98.4 %	98.7 %
純資産	2,142 百万円	2,078 百万円

### 実質組入比率

内訳	1月末	12月末
外国籍投資証券	96.4 %	97.4 %
ETF	0.2 %	0.2 %

### 基準価額

・基準価額および前月比は分配後です。  
 ・基準価額は当ファンドの信託報酬控除後の価額です。

1月末	前月比	12月末
20,046 円	4.2 %	19,243 円

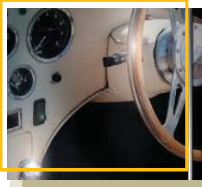
### 基準価額の騰落率

### 分配金の推移(税引前)

・基準価額の騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして計算を行い表示しています。  
 ・分配金は1万口当たりです。

1ヵ月	4.2 %	2023年2月	0 円
3ヵ月	10.6 %	2022年2月	0 円
6ヵ月	8.0 %	2021年2月	0 円
1年	20.4 %	2020年2月	0 円
3年	38.1 %	2019年2月	0 円
5年	76.9 %	2018年2月	0 円
設定来	100.5 %	設定来合計	0 円

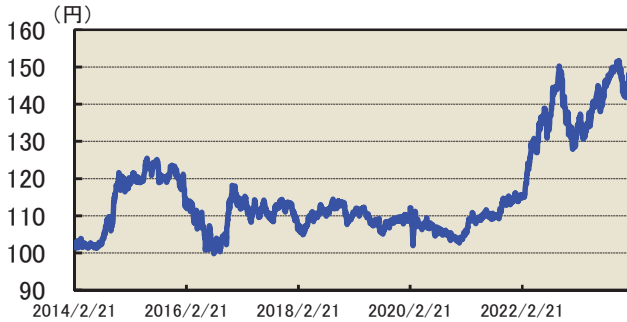
当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

2024年1月31日現在

### 為替(ドル/円)の推移(設定来)



期間: 2014年2月21日～2024年1月31日

出所 三菱UFJ銀行のデータを基に作成しています。

ファンドマネージャーのコメント ・あくまで作成時点での見解等を開示したもので、将来の市場環境の変動やファンドの値動き等を保証するものではありません。

### 運用経過および今後の運用方針

#### <市場概況>

1月の世界株式市場については、前月末に対して、米国、欧州、日本ともに上昇しました。米国では、上旬は、FRB(米連邦準備理事会)の早期利下げ観測の後退が相場の重石となった一方、米半導体大手が生成AI関連の新製品開発を発表したことなどが支えとなり、横ばいでした。中旬は、米長期金利上昇が重石となったものの、台湾半導体大手の決算などが好感されハイテク株が買われ上昇しました。下旬は、米企業決算発表が本格化する中、上昇幅を縮小しました。欧州では、上旬は、ECB(欧州中央銀行)の早期利下げ観測の後退に伴う欧州長期金利上昇などが重石となり、下落しました。中旬も、一部のECB高官によるタカ派寄りの発言などから欧州長期金利が上昇する中、小幅に下落しました。下旬は、中国の預金準備率引き下げや、ECB理事会で夏以降の利下げ可能性が示唆されたことが好感され、上昇しました。一部の欧州企業決算も好感されました。日本では、上旬は、能登半島地震の発生を受けて日銀の金融政策正常化観測が後退し、円安が進んだことなどから、上昇しました。中旬は、海外投資家の買いが続くとともに、米ハイテク株高も好感されて、大幅に上昇しました。下旬は、短期的な過熱感が意識されたことや円安一服から、小幅上昇にとどまりました。日銀が金融政策正常化に前向きと受け止められたことも重石となったようです。

債券市場については、米国、欧州、日本は下落(金利は上昇)しました。米国金利は、上旬は、米労働市場の底堅さが意識されたことなどから、金利は上昇しました。中旬は、FRB高官による早期利下げ観測をけん制する発言や、米小売売上高の伸び不振から上昇しました。下旬は、インフレの鈍化や、米国債需給を巡る懸念の後退、リスク回避の動きなどを背景に低下しました。欧州金利は、上旬は、米長期金利の上昇につれた動きや、ECBは利下げに対して慎重姿勢との見方などから、金利は上昇しました。中旬は、ECBのラガルド総裁など高官が、利下げは慎重に進める必要があるとの認識を示す中、上昇しました。下旬は、ECBの利下げ観測が根強く残る中、米長期金利につれた動きから低下しました。国内金利は、上旬は、能登半島地震を受けて日銀の金融政策の正常化観測が後退する中、金利は低下しました。中旬は、米長期金利の上昇につれた動きや、国債需給の緩みが意識されたことから、上昇しました。下旬は、日銀金融政策決定会合後の植田総裁の会見などを受けて、マイナス金利の解除など金融政策の正常化観測が強まる中、上昇しました。

外国為替市場では、米ドルは対円で、上旬は、能登半島地震を受けて日銀の金融政策の正常化観測が後退する中、米長期金利の上昇もあって上昇し、円安・米ドル高が進展しました。中旬は、FRB高官の発言が早期利下げ観測をけん制する内容と受け止められたことや、米小売売上高の伸び不振などから上昇しました。下旬は、日銀の金融政策決定会合を受けて、マイナス金利政策の解除観測が強まったことや、米長期金利の低下から下落しました。ユーロは対米ドルで、上旬は、米経済の底堅さが意識されたことや米長期金利の上昇に伴い、米ドル高が進展する中、下落しました。その後、ECBによる早期利下げ観測が後退し下落幅は縮小しました。中旬は、FRB高官の発言を受けて米国の早期利下げ観測が後退し、米ドル高圧力が強まることと下落しました。下旬は、ECBは理事会で金融政策の現状維持を決めたものの、夏以降の利下げ可能性が示唆されたため、下落しました。円は対米ドル、対ユーロで下落しました。

#### <アロケーション・ファンドの投資行動>

株式部門については、オーバーウェイトを維持しました。中核ポジションは、安定的に利益を生み、長期の構造的トレンドにマッチした「安定」、「ハイクオリティ」の成長銘柄で構成しています。当月は、情報技術セクターは引き続きオーバーウェイトとしていますが、バリュエーション的に上値が限定的な銘柄のプットオプションを売り建てによりプレミアムを獲得しました。ヘルスケアセクターでは、製薬会社やマネージドケアなどの銘柄を買付けました。一方、金融セクターでは、一部の欧州の銀行を売却しました。地域別では、米国のオーバーウェイト幅を拡大し、日本については、内需関連を中心にオーバーウェイトを維持しました。債券部門については、ポートフォリオのデュレーションを小幅短期化し、全体でも引き続きアンダーウェイトを継続しました。FRBが金融引き締めから移行し始めると、中期ゾーンの債券が恩恵を受けるとの見通しから重点を置いており、一方で長期ゾーンについては、短期的な需給悪化から金利が上昇する可能性があるため、引き続き慎重な姿勢を維持しています。欧州とラテンアメリカのデュレーションをオーバーウェイトし、日本はアンダーウェイトとしています。欧州では、国債と短期の投資適格社債を保有、新興国では、特にメキシコとブラジルの国債に焦点を当てています。クレジットセクターは、短期ゾーンの社債や証券化商品などのオーバーウェイトを維持しました。通貨配分は、ユーロ、中国元、香港ドルをアンダーウェイト、一方で円やスイスフランをオーバーウェイト、一部の新興国通貨も僅かながらオーバーウェイトとしました。金関連証券への投資については、米ドルが引き続き強いことから売却しました。

#### 今後の運用方針

##### <グローバルドライブ>

各ファンドでは、引き続きマザーファンドを通じたアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。また、限定為替ヘッジファンドについては、ヘッジ比率を高位に維持し、米ドル建て資産に対する為替変動リスクを軽減するよう調整します。

##### <アロケーション・ファンド>

足元の強い経済指標にもかかわらず、米国の実質GDP成長率は2024年を通じて穏やかに減速し続けると予想します。しかし、重要なことは、米国の家計資産、労働市場の回復や、財政支出に支えられ、名目GDP成長率は+4%程度になると予想されることです。このような環境の中、2024年のS&P500指数構成銘柄の収益成長率の市場コンセンサスは+13%以上に達すると見られています。また、米国株のバリュエーションは、過去平均と比較すると割高に見えるものの、一部のメガキャップのハイテク株を除けば、リーズナブルな水準にあると考えます。こうしたファンダメンタルズと、FRBによる年内の金利引き下げを考慮すると、2024年の株式市場は引き続き上昇する可能性があると考えしています。株式については、オーバーウェイトを維持し、安定的な成長と質を重視する一方、債券については、米国長期国債の供給リスクを警戒し、短・中期ゾーンに重点を置いて、デュレーションをアンダーウェイトに維持する方針です。クレジットセクターについては、社債、証券化商品および新興国ソブリンなどを組入れ、ポートフォリオの利回り確保を目指します。デュレーションに加えて、現金、デリバティブ、為替ポジションなどでバランスを取り、リスクを意識した運用を行う方針です。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

このページは、ブラックロックのデータを基にアセットマネジメントOneが作成しております。

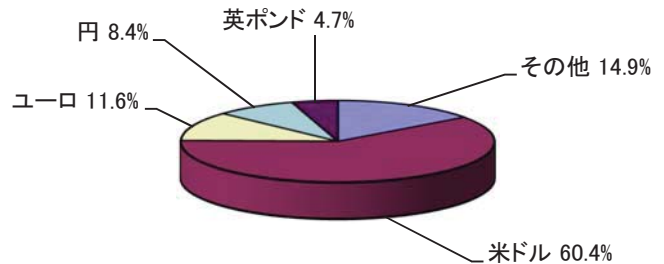
2024年1月31日現在

(ご参考)ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・アロケーション・ファンドの内容 (2024年1月31日現在)

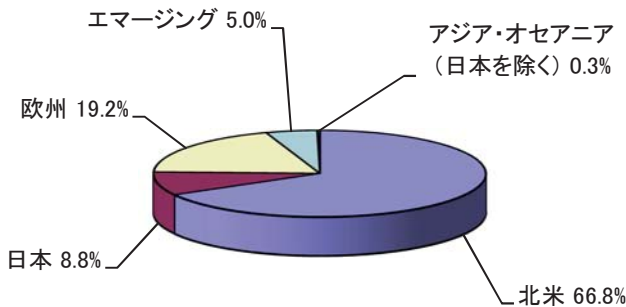
### 資産構成比率

内訳	1月末
株式等	66.9 %
債券	29.4 %
コモディティ	—
キャッシュその他	3.6 %

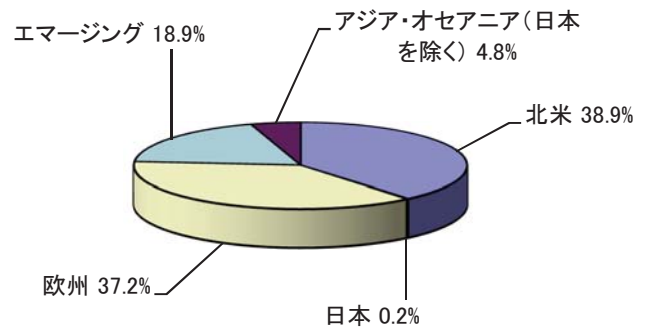
### 通貨別比率



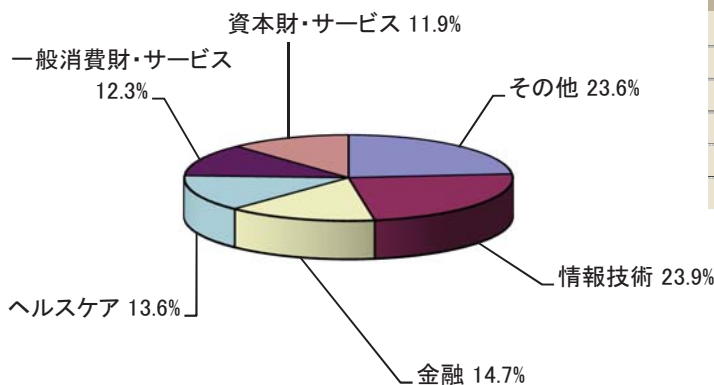
### 株式等地域別構成比率



### 債券地域別構成比率



### 株式等業種構成比率



### 債券種別構成比率

内訳	1月末
国債・政府機関債	58.5 %
社債	35.0 %
証券化商品	5.6 %
転換社債(株式オプション部分除く)	0.4 %
ローン	—
その他	0.6 %

- ・資産構成比率、通貨別比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する比率です。
- ・地域名、業種名、種別は、ブラックロックの分類方法に基づいて記載しております。
- ・地域別構成比率、業種構成比率および種別構成比率はそれぞれ組入株式、組入債券全体を100%とした比率です。
- ・各比率は、ブラックロック作成の数値をもとに記載しております。小数第2位を四捨五入しておりますので合計が100%とならない場合があります。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

このページは、ブラックロックのデータを基にアセットマネジメントOneが作成しております。

2024年1月31日現在

(ご参考)ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・アロケーション・ファンドの内容 (2024年1月31日現在)

### 株式組入上位10銘柄(含むETF)

※特定の銘柄の推奨を目的としたものではありません。また、将来の値動き等を示唆するものではありません。

	銘柄名	比率
1	マイクロソフト	2.9%
2	アマゾン・ドット・コム	1.7%
3	アップル	1.6%
4	アルファベット	1.3%
5	BAEシステムズ	1.0%
6	ASMLホールディング	0.9%
7	エヌビディア	0.9%
8	マスターカード	0.8%
9	JPモルガン・チェース	0.8%
10	ネスレ	0.7%

・銘柄名、比率は、ブラックロック作成のデータを記載しております。

・比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する比率です。



## グローバルドライブ

「グローバルドライブ」各ファンドは、マザーファンド(およびマザーファンドが投資する外国投資信託証券)を通じて、主として世界の株式や債券などに投資します。実質的に組み入れた株式・債券などの値動きや信用状況の変化、為替相場の変動などの影響により基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割り込み、損失を被ることがあります。これらの運用による損益は、すべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、各ファンドは元本が保証されているものではありません。

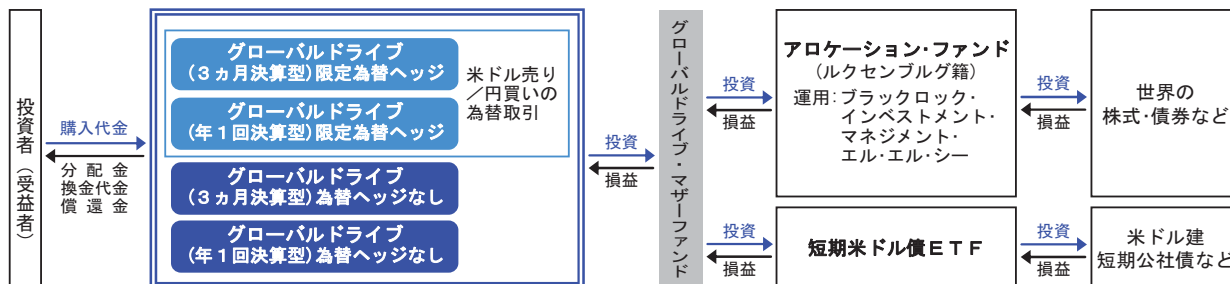
**ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

### 1. 世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

- ◆各ファンドの運用は「ファミリーファンド方式」で行います。
- ◆グローバルドライブ・マザーファンド(以下「マザーファンド」という場合があります。)を通じて、各ファンドは主として「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX」(以下「アロケーション・ファンド」といいます。)米ドル建投資証券に実質的な投資を行います。
- ◆補助的な位置付けとして、短期米ドル建債券などを主要投資対象とする上場投資信託証券(以下「短期米ドル債ETF」といいます。)にも、マザーファンドを通じた実質的な投資を行います。ただし、アロケーション・ファンドの実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。  
※短期米ドル債ETFについては、規模、流動性、信用リスク、追従するベンチマーク指数の差異などを総合的に判断して、銘柄を決定します。
- ◆マザーファンドにおけるアロケーション・ファンドへの投資に係る指図権限を、ブラックロック・ジャパン株式会社に委託します。

### 2. 為替ヘッジの有無および決算頻度の違いに応じて、「(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ」、「(年1回決算型)限定為替ヘッジ」、「(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし」、「(年1回決算型)為替ヘッジなし」の4つのファンドからお選びいただけます。

- ◆「(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ」、「(年1回決算型)限定為替ヘッジ」では、実質外貨建資産については、原則としてそれぞれのファンドにおいて米ドル売り/円買いの為替取引を行います。
- ◆「(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし」、「(年1回決算型)為替ヘッジなし」では、実質外貨建資産については、原則としてそれぞれのファンドにおいて為替ヘッジを行いません。



※各ファンド間においてスイッチングができる場合があります。スイッチングのお取り扱いの有無などは、販売会社により異なります。また、販売会社によっては一部のファンドのみのお取り扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社でご確認ください。

### 3. 原則として、3ヵ月ごとまたは年1回の決算時において、収益の分配を行います。

- ◆「(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ」および「(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし」(以下両ファンドを合わせて「3ヵ月決算型ファンド」といいます。)の決算は年4回、毎年2月、5月、8月、11月の各月18日(休業日の場合は翌営業日)です。
- ◆「(年1回決算型)限定為替ヘッジ」および「(年1回決算型)為替ヘッジなし」(以下両ファンドを合わせて「年1回決算型ファンド」といいます。)の決算は、毎年2月18日(休業日の場合は翌営業日)です。
- ◆各ファンドにおける分配金額は、基準価額水準や市況動向などを勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。
- ◇運用状況により分配金額は変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。



# グローバルドライブ

## 収益分配金に関する留意事項

◆投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



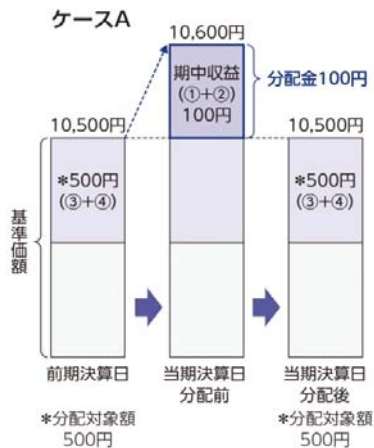
◆分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 分配金額と基準価額の関係(イメージ)

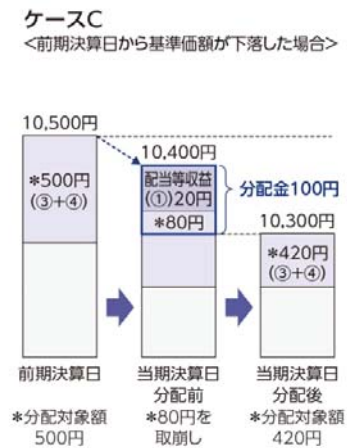
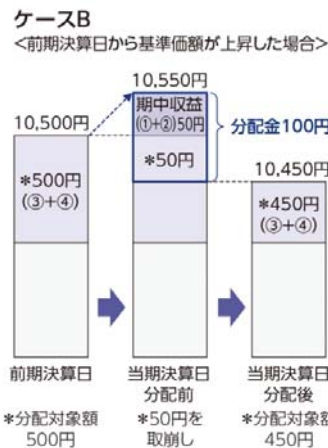
分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

- ①配当等収益(経費控除後)、②有価証券売買益・評価益(経費控除後)、③分配準備積立金、④収益調整金

#### 計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合



#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



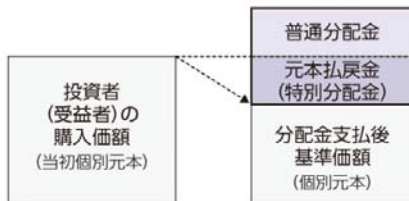
上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

- ケースA : 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円=100円
- ケースB : 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円=50円
- ケースC : 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円=▲100円

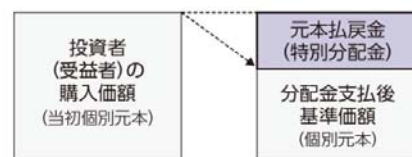
★A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。  
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

◆投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 : 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
元本払戻金(特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

主な投資リスクと費用（くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください）

各ファンドは、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。  
また、投資信託は預貯金と異なります。

株価変動リスク	株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、金利動向、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係などの影響を受け変動します。一般に、株価が下落した場合にはその影響を受け、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。
為替変動リスク	外貨建資産は、為替相場の変動により円換算価格が変動します。一般に、保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも、投資先の通貨に対して円高となった場合には、当該外貨建資産の円換算価格が下落し、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。 「(3ヵ月決算型)限定為替ヘッジ」および「(年1回決算型)限定為替ヘッジ」では、実質的な外貨建資産については、原則としてそれぞれのファンドにおいて米ドル売り/円買いの為替取引を行います。この為替取引により(マザーファンドを通じて実質的に投資する)アロケーション・ファンドおよび短期米ドル債ETFが保有する米ドル建資産の対円での為替変動リスクは軽減されますが、米ドル建て以外の資産については米ドルに対する為替変動リスクを負うこととなります。したがって、それらの通貨が米ドルに対して下落した場合には、それぞれのファンドの基準価額が下落する可能性があります。また、円の金利が米ドルの金利よりも低い場合には、その金利差相当分のコストがかかります。
金利変動リスク	公社債の価格は、金利水準の変化にともない変動します。一般に、金利が上昇した場合には公社債の価格は下落し、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。
信用リスク	有価証券などの発行体が業績悪化・経営不振あるいは倒産に陥った場合、当該有価証券の価値が大きく減少すること、もしくは無くなる場合があります。また、有価証券の信用力の低下や格付けの引き下げ、債務不履行が生じた場合には、当該有価証券の価格は下落します。これらの影響を受け、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。 投機的格付けが付与されているハイイールド債券や当該格付けが付与されている国が多い新興国の債券は、投資適格の債券に比べ信用リスクは高くなります。
流動性リスク	有価証券などを売買する際、当該有価証券などの市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買することができない可能性があります。特に流動性の低い有価証券などを売却する場合にはその影響を受け、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制などの要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。これらの影響を受け、各ファンドの基準価額が下落する可能性があります。 一般に新興国市場は、先進国市場に比べて規模が小さく、流動性も低く、金融インフラが未発達であり、さまざまな地政学的問題を抱えていることから、カントリーリスクはより高くなる可能性があります。
特定の投資信託証券に投資するリスク	各ファンドが実質的に組み入れる投資信託証券における運用会社の運用の巧拙が、各ファンドの運用成果に大きな影響を及ぼします。また、外国投資法人を通じて各国の有価証券に投資する場合、国内籍の投資信託から直接投資を行う場合に比べて、税制が相対的に不利となる可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

各ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。





## グローバルドライブ

**お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。
購入・換金申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を行いません。 ・ルクセンブルグの銀行の休業日 ・12月24日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金・スイッチングのお申込みを取り消す場合があります。
信託期間	2029年2月19日まで(2014年2月24日設定)
繰上償還	各ファンドがマザーファンドを通じて実質的に投資するアロケーション・ファンドが、償還した場合または以下に掲げる事項の変更により商品の同一性が失われた場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。 ・アロケーション・ファンドの主要投資対象が変更となる場合 ・アロケーション・ファンドの取得の条件または換金の条件について、投資者に著しく不利となる変更がある場合 次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・各ファンドにおいて受益権の総口数が30億口を下回った場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
決算日	【3か月決算型ファンド】毎年2月、5月、8月、11月の各18日(休業日の場合は翌営業日) 【年1回決算型ファンド】毎年2月18日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	「3か月決算型ファンド」は年4回、「年1回決算型ファンド」は年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※各ファンドのお申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。なお、2024年1月1日以降は、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※原則、収益分配金の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となる場合があります。
スイッチング	各ファンド間において乗り換え(スイッチング)ができる場合があります。 スイッチングの取扱いの有無などは、販売会社により異なりますので、詳しくは販売会社でご確認ください。 ※スイッチングの方法などは、購入および換金の場合と同様になります。また、購入時手数料は販売会社が別途定めます。

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

### ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

下記の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。  
※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

#### ●投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 <b>3.3%(税抜3.0%)</b> を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	ありません。

#### ●投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>各ファンドの日々の純資産総額に対して<b>年率2.068%(税抜1.88%)</b></p> <p>※運用管理費用(信託報酬)は、毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、「3か月決算型ファンド」は毎計算期末または信託終了のとき、「年1回決算型ファンド」は毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期末または信託終了のとき各ファンドから支払われます。</p> <p>※信託報酬には、グローバルドライブ・マザーファンドのアロケーション・ファンドへの投資の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ブラックロック・ジャパン株式会社)に対する報酬(各ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.75%(税抜))が含まれます。</p> <p>※マザーファンドを通じて実質的に投資するアロケーション・ファンドでは直接の投資運用会社報酬などはありません。(ただし、各ファンドの委託会社であるアセットマネジメントOne株式会社が受ける報酬から、マザーファンドの投資顧問会社であるブラックロック・ジャパン株式会社に投資顧問報酬が支払われます。そして、その投資顧問報酬から、アロケーション・ファンドの投資運用会社などへの報酬が支払われます。)アロケーション・ファンドの上記報酬制度は変更される場合があります。</p> <p>※マザーファンドを通じて実質的に投資する短期米ドルETFについては、市場の需給により価格が形成されるため、その費用を表示することができません。</p>
------------------	--

その他の費用・手数料	<p>その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。</p> <p>・組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の処理に要する諸費用 ・外国での資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等</p> <p>監査費用は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、「3か月決算型ファンド」は毎計算期末または信託終了のとき、「年1回決算型ファンド」は毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等はその都度ファンドから支払われます。</p> <p>※投資対象とするアロケーション・ファンドにおいては、有価証券売買時の売買手数料、計算にかかる報酬、登録および名義書換代行事務会社報酬、税務顧問、法律顧問、ファンド監査人などへの報酬、取締役の報酬、保管受託銀行への報酬などがかかります。</p> <p>※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>
------------	--

当資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。後述の「投資信託ご購入の注意」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。



## グローバルドライブ

### 投資信託ご購入の注意

投資信託は、

- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

### 当資料のお取り扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託などの値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額の変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

#### ◆ファンドの関係法人 ◆

- <委託会社>アセットマネジメントOne株式会社  
 [ファンドの運用の指図を行う者]  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号  
 加入協会: 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会
- <受託会社>みずほ信託銀行株式会社  
 [ファンドの財産の保管および管理を行う者]
- <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

#### ◆委託会社の照会先 ◆

- アセットマネジメントOne株式会社  
 コールセンター 0120-104-694  
 (受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)
- ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>

マザーファンドにおけるアロケーション・ファンドへの投資に係る指図権限をブラックロック・ジャパン株式会社に委託します。

「グローバルドライブ(3ヵ月決算型)為替ヘッジなし」が、『R&Iファンド大賞2023』の「投資信託/バランス比率変動型(株式・REIT中心)部門」において最優秀ファンド賞を受賞しました。



「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託部門」は過去3年間を選考期間とし、シャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウンを加味したうえで選考しています。

\* 当該評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。



# グローバルドライブ

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。□印は取扱いファンドを示しています。 2024年2月22日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考	(3カ月決算型) 限定為替ヘッジ	(3カ月決算型) 為替ヘッジなし	(年1回決算型) 限定為替ヘッジ	(年1回決算型) 為替ヘッジなし
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○		□	□	□	□
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第34号	○	○	○			※1	※1		
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○				※1	※1

●その他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

(原則、金融機関コード順)